

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2026 第二弾！を実施しました。

2026年5月29日（金）18時00分から「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2026 第二弾！を実施しました。

今回は、高島市民病院から訪問看護認定看護師の武内 美英子先生をお招きし、『高島市の地域特性から多職種連携、訪問看護、災害医療を考える』をテーマについてご講演いただきました。

当日は学部生13名、教職員7名の合計21名の参加がありました。

初めに高齢化社会が進む中、国や県が取り組んだ社会福祉事業の整備などについて説明いただきながら、病院と地域を繋げたいとの思いから武内先生が訪問看護師になられるまでの経緯について、平成から令和の時代の流れに沿ってお話いただきました。

また、高島市が『誰もが地域とのつながりの中でいつまでも達者で暮らし続けることができる高島』と掲げている健康づくり支援の大切さについてもお話いただきました。

人口減少傾向にある中、市内の精神疾患患者や障がい者の占める割合は増加傾向にあり、家族を含めて支援が必要な場合が多く、訪問看護は利用者の方が臨機応変な支援を得るものなので、タイムリーな連携とチームで関われる仕組み、コーディネーター力や優しさが求められていること、また他の医療職であっても、看護師に置き換え、看護師として何ができるのか、自分たちが経験していく中で何が出来るかを考えてもらいたいとメッセージをいただきました。

最後に、平成25年9月に起きた災害（台風による水害等）について、実際に対応された事例を挙げていただきながら、防災への取り組みなど、地域の特性や課題を理解していくことで、地域の方の安全・安心につながっていくとお話いただきました。

参加学生からは「医師になった時に、どのように地域の訪問看護のチームと関わっていくのが地域に暮らす方々の支えになるかを考える時間になりました。」「看護は点ではなく線の視点で捉えることが重要だと実感しました。」「訪問看護師の魅力を強く感じた」といった感想があり、本講演は盛況のうちに終了しました。



（この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人 滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）